

日本記者クラブ会報

多彩な会見、研究会

通常総会を五月二十五日に

一月に続き二月も、政財界首脳を招いての昼食会を中心に、クラブ活動はきわめて活発であった。政界からはニューリーダーの二人目として自民党の安倍総務会長、続いて小坂



「売上税はグリーンカードみたい……」
(五島日商會頭社長會 2月6日)

一月に続き二月も、政財界首脳を招いての昼食会を中心に、クラブ活動はきわめて活発であった。政界からはニューリーダーの二人目として自民党の安倍総務会長、続いて小坂

去年暮れからクラブが取り上げてきた主要テーマは、まずコメの問題、次に経済見通し、貿易摩擦と円高、そして売上税、さらにエイズ、というぐあい、どれもこれもタイムミングがよかった。
ゲストにはサイン帳に一筆お願いしているが、竹下幹事長の「忍」の一字に対し、安倍総務会長は「不動心」、また斎藤経団連会長が「鈍鳥逆風」なら五島日商會頭は「売上税の

第205号
1987年
3月10日発行
東京都千代田区内幸町二ノ二ノ一
日本プレスセンタービル 100
◎ 社団法人 日本記者クラブ
電話 五〇三二七三二(代)

嵐の前に立つ」と、それぞれに人柄や立場がうかがえて面白かった。

一方、エイズの研究会は記者会見室が満員になった。国立予防衛生研究所の北村先生の話は難解なところもあったが、ことの性質上、いたしかたないか。適当な時機に違う角度から第二回を、との声が強し。

記念講演は丸谷才一氏

三月以降、五月の年次総会までの間に重要な会議があいついで聞かれる。第一はクラブ賞受賞者の選考、すでに六件の候補があがっており、三月二日の推薦委、四月十三日の選考委をへて、同月二十七日の理事会で決定、五月二十五日の総会に引き続き授賞式、という段どり。

第二は予算と決算の審議、まず三月九日の総務委と理事会で新年度の事業計画案と予算案を審議し、同月二十三日の臨時総会で決定、ついで四月二十七日の総務委、理事会で事

業報告案と決算案を審議、五月二十五日の総会にかける。

第三はクラブ役員(理事および監事)の選任、手順は、まず三月九日の総務委で役員選考委の設置を決め、四月十三日の役員選考委をへて、同月二十七日の理事会で役員構成社を決め、五月二十五日の総会で選出、理事会で正副理事長を互選、となる。

このように、五月二十五日(月)はクラブ活動の根幹を定める重要な日である。総会は午後三時から開かれ、引き続きクラブ賞授賞式、ついで恒例の記念講演、夕刻から和やかに懇親会、というスケジュールが組まれている。

記念講演のゲストについては、新年早々から何回か、企画委が中心になって検討し、作家の丸谷才一氏に来ていただくことになった。

最後に、昨年暮れの「コメをどうする」の記録版がやっと刷り上がりお手元にお届けした。また本号からクラブ会報の紙質を変えてみた。従来の会報は写真のりが悪い、との声に応えた次第。批判を仰ぎたい。

(事務局長 下田進一)

とっておきの話

朝鮮動乱

捕虜にとりつかれて



関 憲三郎

通訳をしてくれていた作家Kさんの頭髪が、激しく後ろに揺れたのが見えた。眼を見張ったりする

とき、前頭皮も一緒に動く人がいる。その時、Kさんが五人のインタビュ―相手から、驚愕の証言を聞いたのだと、私は直感した。

青ざめ、込みあげるものをのみこむようにして、Kさんは手にしていた箸をおいた。ペンを持ち直して通訳を待ったが、Kさんは絶句したように、何も言わない。五人の間で、緊張した私語が、あわただしく交わされている。

オンドルの部屋の固い床に、私たちは、あぐらをかいて円座していた。ランプのほの明りに浮かぶ五人の顔を見回すと、おだやかだ

った表情が、急にこわばっていた。何か「言ってはいけないこと」

を一人が口にし、皆であわてふためいた様子だ。にわか押し包んできた沈黙に、通訳を促すこともためらわれた——一九五四年春、朝鮮動乱の戦禍で互疎の街となっていたソウルの、ある韓国料理屋での一夜のことである。

◇

前年七月、休戦協定が成立し、残された捕虜問題も、その年の一月ようやく一件落着した。読売ソウル特派員(国連軍従軍記者)だった私は、帰国を拒んで韓国に留まった元北朝鮮軍捕虜の証言を集

めようと思いい立って来た。

捕虜交渉が始まったから、韓国にあって北朝鮮軍、中国義勇軍捕虜收容所では、帰国希望派と拒否派の間で流血の抗争が続発、夜間にバラバラ死体が收容所の金網に投げかけられていたり、井戸に埋めてあったりした。

帰国を拒む捕虜たちが、翻意させようとする北朝鮮、中国側代表の説得に、心をかき乱され、わめき散らし、食ってかかるのを傍聴し、彼らの心理の葛藤に、私は身もすくむ思いをした。

説得期限が切れ、收容所から釈放された元捕虜たちの顔は、濃い拘禁性反応にくまどられ、異常だった收容所生活の激しい心労を、まざまざと示していた。

捕虜問題に引きつけられて、私は親しくしていたKさんに協力を求めた。韓国ビザを持たない日本人記者の取材には制約があった。

幸い、Kさんも強い関心を寄せ、元捕虜とのインタビュ―の設営に奔走してくれたのだった。

取材に応じた五人は、韓国軍情報部や警察に勤めており、上司の許しを得て来ていると言う。北での生活、従軍の経緯、動乱での体験、收容所生活、帰国拒否の動機など、回を重ねて、彼らの証言を克明にメモしていった。

◇

その夜は四回目。証言内容は、その都度上司に報告し、国家威信の高揚に役立つから引き続き取材に協力せよ、と言われているとのことで、彼らもうちとけ、くつろいだ雰囲気になっていた。

そこに落とし穴があった。気を許し、口を滑らせた証言が、Kさんを驚愕させ、Kさんの驚愕が彼らをおびえさせてしまったのだ。

気まずい散会。そして二人だけの暗い夜道。Kさんが、つぶやくように私にささやいた。

「あの時、何を言ったと思います？ 吐き気がして、通訳する気



と報道され、私
逮捕か追放か」
て、「関記者、
た取材があっ
当局ににらまれ
た取材があっ
て、「関記者、
逮捕か追放か」
と報道され、私

になれなかったんですけどね」

「収容所で、説得を受けたら北へ帰りそうな気配の捕虜がいると、皆で殺して、証拠隠滅のために、骨を粉々にしてバラまいて」

「肉は切り刻んで、皆に配給されて、ゲーゲーやりながら食べさせられた、と言うんですよ」

「おなががすいていたわけではないんです。食糧は米軍から十分補給されていたんですから」

「北へ帰る捕虜が出ると、その口から帰らない捕虜の身元が割れて、北にいる家族が迫害されるのが恐かったと言うんですね」
衝撃が走り、質問もできなかつ

た。あの場では、Kさんもそれ以上は聞けなかっただろう。いつ？どこの収容で？ 何人殺したんです？ 骨はバラまいたというのに、どうして肉は埋めなかったんです？ 内臓は？

◇
数日後、国連軍記者宿舎に、Kさんが私を訪ねてきた。一時帰国の支度を終えたところだった。

「夫婦で警察へ呼び出されまして、この前の捕虜の話は国家機密だから、関記者のメモを取りあげてこい、さもないと、お前ら夫婦をぶちこむぞ、と言うんです。い

ま、この宿舎の表に私服が張りこんで、私を待ち構えています」

ほかに韓国当局ににらまれた取材があつて、「関記者、逮捕か追放か」と報道され、私

は外出を慎んでいた。捕虜証言を整理し、記録し直しておかなかつたことが悔まれた。コピー機など、まだなかった時代である。

◇
私自身は、大学ノート四冊の証言メモを携え、韓国公権力の及ばない国連軍（米軍）ルートで帰国してしまえばいいものの、Kさん夫妻を危険にさらすことになる。北出身のKさんは、南へ逃れてきたとき、スパイ容疑で尋問、拷問を受けたと聞いてもいた。

あの証言はノートに書き加えないが、現物を渡さなければ、承知する相手ではない。渡してしまえば、返すはずもないが、帰国を延ばして要点を書きうつそうにも、あまり待たせるとやはりKさん夫妻が危い。

ノートをそっくりKさんに手渡した。これが知れたら、韓国の検閲に屈した、と非難されるかもしれないが、Kさん夫妻の安全が第一。それに、あの証言の裏付けは、到底とれないと思いがら。

後日、Kさんとは二回会う機会があつたが、この話には互いに触れなかった。元捕虜たちも、あのおぞましい体験を、二度と話すことはないだろう。

飢えに迫られた物理的極限状態で、人間が人間の肉を食べた話は何度か聞く。しかし、精神的、心理的極限状態に追い込まれたときは、そういうことはあるという話は、ほかに聞かない。

書いていいことかどうか、ハムレットの心境だが、忘れてしまうこともできず、胸につかえていた話である。ひどいフィクションと非難されても、返す言葉もない。あのころ在韓米軍を慰問に来たマリリン・モンローの、素肌にミリタリー・ルックのあで姿（一九五四年二月十六日、金浦空港で筆者撮影）を、なんとなく添えておく。

せき けんざぶろう氏略歴 昭和三年長野県須坂市出身。東京外大中国語科卒。二十六年読売新聞入社。ソウル、香港、北京特派員などを経て、外報部長、論説委員を務める。六十一年退社。四十二年ポーランド国際記者賞受賞。現在、東京ファミリークラブ専務理事兼内外研究所長。

若王子さん誘拐事件

ワーキングプレス

「まさか、そんなバカな」。思わず絶句した。忘れもしない。一月二十二日午後十時過ぎ。日本と欧州の一部報道機関が、マニラ発で、誘拐された若王子信行・三井物産マニラ支店長（五三）救出の確報を流し始め、本社からマニラ支局に、その内容が次々に流されてきた。

その直前、事件について確度の高い情報を握っている人物と接触し、支局に帰ってきたばかりだった。事件捜査にあたるフィリピン警察軍国家捜査局（CIS）筋は、夕方の段階で、「今夜八時ごろには若王子氏が解放されるかもしれない」ともらしていた。だが、この人物の口から出たのは、否定的な話だけだったのである。

間もなく誤報と判明したあの夜の「支店長救出騒ぎ」の真相は、こうだった。事件現場に近いバタナガス州の州知事で、側近を通じて支店長解放交渉を進めてきたホセ・ラウレル氏と、犯人側との間で、一つの取り決めができた。少なくとも、関係者の多くはそう理

解していた。

解放は、二十二日午後七時から九時の間。場所は、同州タガイタイ市内の民家。まずラウレル氏の知人が身代わりの人質になって若王子氏と交換。次いで、犯人の一人として当局に逮捕されているイレネオ・ファハルドと、この身代わりとを交換するという二段階方式で行われる予定だった。

フィリピン側からの連絡を受け

当局の情報もアテにならず

西田 令一

た当地の日本大使館は、ひそかに館員十人ほどを館内に待機させ、救出に備えた。三井物産マニラ支店も、同様の準備態勢を取った。

一方、CISでは午後七時ごろから、ロメオ・スルエタ局長（准将）が、将校全員を自室に招き、夕食を振る舞った。この席で、フィリピン人にしては無口なスルエタ氏が、珍らしくジョークを連発し、「解決はもう時間の問題だ」

とまで言い切った。

ところが午後七時半、交渉関係者から局長あてにかかってきた一本の電話で、楽勝ムードは暗転する。電話は、当局側が約束の場所に赴いたものの、犯人側は全く姿を見せなかったことを告げている。スルエタ氏は、電話口で「アノ」（タガログ語で「何てこった」という意味）と、どなったという。

この一件、今とってみると、犯人側が一方的に取り決りを破ったのか、それとも、「交渉」が犯人側とつな

ったものではなかったのか、それすら判然としない。だが、軽視できない

のは、救出報道があったのが、CISが救出失敗を確認してから二時間半も後だった点だ。裏付け取材が甘かったそしりは、免れまい。

フィリピン報道に関してはこれまでも、マニラ保険金殺人事件、タイ航空機事件など、誤報の一步手前、虚報の類いは、少なからずあった。日本などと違い、当局サイドから流れる情報が、恐ろしくアテにならないためである。本来は憶測

や願望にすぎないものが、当局者の口から真実めかして語られ、独り歩きしてしまふ例は枚挙にいとまがない。当地のマスコミが、それをさらに膨らまして流す。

当地の読者は、そのあたりは織り込み済みで、目クジラなど立てない。この種の報道を楽しんでいる風情すらある。全てにおおらかな社会の現象だが、外国人特派員は、こうした事情を知らないといふ大きなミスをしでかすことになりかねない。

昨年末から今年初めにかけて、若王子支店長生存説がしきりに流れたことがある。生存の根拠を問いつけながらの取材とあいなる。「死んだという情報より、皆がハッピーになるからいいじゃないか」といって、片眼をつぶって見せた。（もつとも、その後、これが事実であることが証されたが）あれからひと月、今も当局には、様々な玉石混じりの情報が入ってくる。そのたびに、眉につばつけながらの取材とあいなる。

にしたり（一九七七年読売新聞入社。八五年からマニラ特派員）

消える高炉 室蘭

ワーキングプレス

鉄都・室蘭は今、新日鉄室蘭製鉄所(北村卓夫所長、四千二百人)の大掛かりな合理化案を受け、打ち沈んでいる。新日鉄(本社・東京、武田豊社長)の合理化問題は昨年十二月に入ってから、度々、テレビや新聞で報道され、同製鉄所の高炉休止が動かし難いことは「覚悟」はしていた。しかし、いざ「休止」が現実のものとなると、たとえ高炉休止が六十五年三月と猶予期間を与えられたとはいえ、ショックがいやされるまで時間がかかる。

企業城下町・室蘭に移り住んで三年になるが、高炉休止の重大性は痛いほど分かった。同時に、新日鉄が室蘭で占めるウエートの重さをつくづく思い知らされている。

高炉は鉄の町のシンボルである。室蘭製鉄所の高炉は明治四十二年(一九〇九年)に火入れを行い、北海道の製鉄業の幕明けを告げた。以来、八十年近くにわたって北海道で唯一の鉄鋼一貫体制の製鉄所として、しゃく熱の火を燃やし続けてきた。現在は六十五年

三月に火を落とす新二号高炉だけの一基態勢だが、かつては四基態勢でフル稼働し、昔を知る室蘭市民は「高炉一本で三万人(家族を含め)のメシが食えたよ」と言い、生活の糧を得る支柱でもあった。その高炉が消える……。

私は、「室蘭は有史以来の危機に立っている」(岩田弘志室蘭市長)という深刻な言葉を聞いて、企業城下町の避けられない「宿命」

「中央の論理」の偏重ないか

細川公夫

を改めてかみしめている。室蘭は昭和四十四年に人口十八万三千人を数え、新日鉄室蘭製鉄所はもちろん、室蘭を支えるもう一本の軸である日本製鋼所室蘭製作所、それに造船会社も高度成長期をおう歌し、街は活気にあふれていた。それが企業が衰退するのに歩調を合わせるように、現在人口十三万八千人に落ち込み、なお流出が止まらない。室蘭の人口の変動は

見事なまでに、企業城下町の光と影を映し出している。

企業依存の町は、大手を頂点にして元請け、二次、三次下請け——とピラミッド形に労働社会を築き上げる。新日鉄室蘭製鉄所では今回、従業員二千人を削減する計画だが、これに伴って関連、下請け企業も合わせて二千八縮小せざるを得ない状況に追い込まれる。製鉄所本体の従業員は配転・出向などで首が飛びぶことは避けられる。しかし、関連従業員は室蘭で生き延びていくしかなく、容赦ない人員合理化も待っている。「トカゲのシッポ

切りのように、いつも切り捨てられるのはわれわれさ」。取材で下請け企業に足を運んだが、中年の労働者は悲しく、暗い表情を見せ、胸が詰まった。

また、ある関連企業のトップは「脱新日鉄」を意欲的に語った後「匿名にして会社の名前を書かないでくださいね」と何度も念を押し、親方である新日鉄への配慮を示した。そこに、これまで

「運命共同体」として大企業の傘の下で生きてきた関連下請けの重苦しく、つらい胸の内がうかがえるようだ。

——「北海道の産業はどうなるのだろうか?」。今回の新日鉄の合理化問題を取材して以来、ずっと心につきまとうってきた複雑な思いだ。石炭、漁業、農業、国鉄、そして鉄鋼。北海道開拓の百有余年の歴史を刻み込んできた基幹産業は音をたてて崩れつつある。経済の冷徹な原則を納得できても、そこに「中央の論理」の偏重を感じ取るのは余りにも地方のひがみだろうか。

ほそかわ きみお(一九六七年北海道新聞入社。根室、釧路支社、本社社会部勤務を経て、八四年から室蘭支社報道部)



3年後には高炉が消える

高松宮さま逝去

ワーキングプレス

高松宮さまの異変に気づいたのは昨年十月二日、皇居で行われたコイビスト・フィンランド大統領の歓迎晩餐会。他の皇族と並んでメインテーブルに着かれた宮さまの顔がげっそりやせ、目ばかり大きく見えた。「もうお太りにはならないでしょう」というある筋の言葉から、それが肺がんのためであることを知り、国立がんセンターや日赤医療センターで検査ずみであることを確認するまで数日かかった。

宮内庁が宮さまの病気を「老人性肺結核」と発表したのは、秋の園遊会欠席がはつきりした同月二十四日のことである。宮さまには本名の病名が知らされていない以上、宮内庁がそう発表するのも無理からぬことだった。しかし、記者としてがんであることを知っているのに、「結核だ」と書くのはウソになる。宮内庁の発表がどうあろうと、わが社は「胸部疾患」という表現で始めから報道することに決めた。取材でいちばん苦労したのは、宮さまの病状の変化である。もと

もと宮さまの「宮内庁不信」は相当なもので、宮内庁病院には皇族用の特別室があるのに来られたことはなく、治療に当たったのは入院先の日赤医師と高松宮妃が研究基金関係の権威者だけ。宮内庁の医者は関係せず、まことに隔靴搔痒(かっかそうよう)の取材にたよらざるを得なかった。

初めから「胸部疾患」で

岸田英夫

聞いていたのに全く急だった。お亡くなりになる当日、朝九時半ごろ、林日赤社長から直接連絡があり、急拠、天皇陛下にお見舞いに行って頂くことになった。今から思えば、ご臨終までによく間に合ったものだと、冷や汗の出る思いともらずほど。

皇族の葬儀は二十八年一月の故秩父宮さま以来三十四年ぶり。秩父宮の葬儀を知っている宮内庁職

員はほんの数えるほどで、まして宮内記者会の現役にそんな記者はいない。

「お舟入(ふねいり)」「正寝移柩(せいしんいきゅう)」「霊代安置(れいだいあんち)」「斂葬(れんそう)……と、耳なれない諸儀式をレクチャーに来る宮内庁職員のプロレスも回らないし、説明もあやしい。それをかみくだいて書かねばならぬ記者たちも、昔の『皇室事典』や『広辞苑』と首っ引き。そのうえ、高

輪の高松宮邸へ両陛下の弔問や通夜の客の取材。ホカロンのお世話になりながら、寒風の朝、冷気のはい上る夜の宮邸に長時間、何度か立っていなければならなかった。

Xデーをにらんでいなければならぬ宮内記者としてはこれまで、古い記録や文献を読んで、皇室葬儀の順序等はいちおう頭の中に入っていた。しかし実際にまのあたりにするのは初めて。Xデーともなれば、そのスケジュールは段違いだろろうが、皇室内部での基本的

なものはその変わりはない。その意味では「百聞は一見に如(し)かず」の格言通り、貴重な機会だったというのが実感である。

とはいっても、新憲法下での一皇族の死をあれほどまでに大きく扱ってよかったのだろうか。逝去が夕刊締め切りぎりぎりとの劇的だっただけに、その興奮を最後まで引きずってはいなかったか。反省の余地はある、と私は思っている。



豊島岡墓地での敬葬の儀(2.10)

きしだ ひでお(一九五七年朝日新聞入社。名古
展、東京本社社会部を経て六九年から宮内庁担
当、現在社会部編集委員)

エイズ報道

ワーキングプレス

疫病による一人の人間の死が、これほどまでに関心を集めたのは異例のことといつてよい。

今年一月二十日、神戸で国内初の女性エイズ患者が死亡した。異性間で感染、発病したこの女性は、不特定多数の男性とも性交渉を重ねていたことが明らかになった。女性が死亡してからわずか二週間の間に、全国のエイズ相談窓口には五万件を超える電話が殺到した。このケースは、日本のエイズ問題が新たな段階に入ったことを強く印象づけた。松本のジャパゆきさん騒動で、くすぶり始めたエイズ報道はここにきて一気に火を吹いた。

エイズ対策の焦眉の課題は、数千人とも一万人ともいわれる日本のエイズ感染者の実態を、できるだけ正確に把握することである。闘う相手の全体像を知らなければ、的確な戦略をたてようがないからである。

実は厚生省は、神戸の問題が表面化する直前、この課題に取り組む「ハイリスクグループ研究班」(西岡久寿彌北里研究所客員部長

ら八人で構成)を組織した。メンバーのうち数人は、名前が公表されていけない。隠密部隊として自由に行動し、感染者の実態に迫ろうというわけである。

NHKでは、デイリーニュースのフォーロとは別に、急拠NHK特集のプロジェクトチームを編成、研究班の動きを追った。二月三日、研究班は、都内で緊急会議を開いた。そして特殊浴場

標的は「病気」で「病人」でない

南直樹

西岡研究班の動きとあわせて、男性エイズ感染者から寄せられた手紙を取り上げた。手紙の中でこの男性は、いつ発病するかもしれないという不安と、自分が感染者であることを知られた時、周囲や社会からつまはじきされてしまうのではないかとこの恐怖とを、綿々とつづっている。「なぜ、私達は犯罪者のように見られなければならないのか」。

そこには誰にも本当のことをうちあけられないまま、悩み苦しむ感染者の悲痛な叫びがある。

松本で起きたジャパゆきさんの騒ぎ以来、エイズ報道は過熱気味である。中でも神戸の女性患者のケースや、高知

で働く女性など、風俗営業従事者をはじめ、覚醒剤常習者や同性愛者など、これまでほとんど調査が行われていなかったグループにもメスを入れ、三月中にも、感染者の数を正確に絞りこむ方針を決めた。こうして、日本のエイズ戦略が、ようやく本格的に動き始めた。二月六日、NHK特集「エイズと汚染は広がるか」を放送した。番組では、エイズ対策に取り組む

この病気から社会を守るために、エイズ報道にあたっては、

めに感染の実態を明らかにし、視聴者や読者の知る権利に答える必要があることはいうまでもない。しかし、社会から切り捨てられる危険にさらされている患者や感染者の、人権やプライバシーを守ることも忘れてはならない。

全世界のエイズによる死亡者は、このまま進めば、今世紀末には一億人に達するという推計も出ている。この悪疫との闘いは始まったばかりである。その闘いの相手は、あくまでも「病気」であって、「病人」ではないことを銘記しておきたい。

みなみ なおき(一九七一年NHK入局。八二年から厚生省担当。現在特報部デスク)



エイズ対策の大綱決定後、談話を発表する斎藤厚相(2.24)写真提供 時事通信社

ク ラ ブ ゲ ス ト

J・イングラム 世界食糧計画(WFP)事務局長



このところ 飢えたアフリカの子供たちの写真が、新聞、雑誌で大きく扱われることもない。

昨年、アフリカ一帯は雨にめぐまれた。しかし、サハラ以南は危険な状態が続いている、と言う。飢餓問題はアフリカと南アジアに集中していた。南アジアは、米麦農業の技術進歩・緑の革命の恩恵を受け、そこから脱出しつつある。が、「緑の革命はアフリカを素通りした」。米や小麦以外に頼るアフリカへの、農業技術の移転は全くの未解決である。定期的に干ばつに見舞われ、人口は急増している。「二〇〇〇年には一〇億人、産児制限を進めても最終的に一五億人くらいまでいくのではないか」。

WFPの活動は二つに分類できる。一つは災害など緊急時の食糧援助。アフリカの飢餓(一九八四〜八五年)に際しては、全食糧援助の四分の一がWFPの手で実施された。こうした緊急援助活動が三分の一

で、三分の二は植林、農業基盤整備などの開発関係で、この場合も食糧が資金の一部または全額として、現物支給される。

WFPは一九六三年国連およびFAOの共同計画として発足、加盟一五九か国。通常拠出金規模で一〇億ドルを超え、国連システムの中で最大規模(世銀グループを除き)の開発事業活動を行っている。わが国の拠出順位は一三位でシェア二%。GNP二位の日本の一三位は残念なことだ」と事務局長は強調する。

二国間の食糧援助が主であることや、当初余剰農産物を利用した援助計画だったため、スタートが極めて少額だったことなどとも関係している。しかし、いまやマルチの食糧援助にも目を向け直す必要がありそうだ。「二月三日(火) 記者会見 司会 石丸和人企画委員 通訳 キヤサリン・スターリング 出席 三五人」

安倍晋太郎 自民党総務会長

前夜、与党の出席のみで予算趣旨説明を強行、国会とまる。

「内憂外患の時代に入った。国会も大



荒れの状態、これから先どうなるか見通しがつかない。売上税、防衛費一%突破問題をかかえる今国会を警職法国会、安保国会当時を思い出しながら、「エングの悪い話だが、ただではすまない感じがしている」と。

売上税については「容易でない反対運動になっているが、二一世紀に向けて開放国家として進むためにも税制改革は必要なので、こまめくればやらねばならぬ」。「国会で多段階網羅的な大型間接税はやらない、と言ったのも事実なので、野党から言えば公約違反ということにもなる。それで、党としては、投網に四四項目の大きなアナをあげ対象を売上一億円以上として、受けてたてるだけの用意はした。あとは国会で十分議論して、その過程で時間をかけ国民の理解を得ていきたい」。

国会が入口で停滞している間にも、貿易摩擦は激化の気配で、円高不況で雇用問題も深刻化している。「予算を年度内に通し公共事業を前倒し施行しないと、日本経済は暗澹たるものになる」。またピンチ脱出のため、今秋にかけて新しい財政政策も必要との考えを示した。

「風雲ただならぬ状況なので、国会が終わってからどうなるか考える余裕がない」とポスト中曽根については語らず。それでもスピーチの最後で

「オールド・グロウスからニュー・グロウスへ」と、政権構想のハシリをちよつびり。「長寿社会が活力を失わず発展するには、文化や環境や生活とバランスのとれた経済政策が必要だ。また農政改革なしには日本の生きる道は困難」とも。

質疑で総裁選への意欲をきかれても「正月には相当張り切っていて、不動心でもあもこうも言おうと思っていたが、円高と税制で国内が動揺し国会も見通し立たず、いまは国会乗り切り一点に集中して、すべて消え、不動心」だけが残っている。揮「うは残った「不動心」。

【二月五日(木) 昼食会 司会 三宅久之企画委員 出席 一五六人】

五島 昇 日本商工会議所会頭

この日の各紙朝刊はいずれも一面トップで「日商会頭、売上税条件付き賛成へ」を報じた。

会頭の講演は有名。昨年(三月四日)の昼食会でのスピーチはわずか三分三〇秒だった。しかし、この日は約二〇分。多分、会頭としては最長レコードであろう。内容はオンレコを混じえ売上税と新行革審人事。

「売上税に、日商は基本的に反対であるとの立場は崩していない」「日商も経済団体として活動している以上、自民党・自由経済体制の中で動くべきで、野党との共闘など手段を選ばぬ方向は大きな

ク ラ ブ ゲ ス ト



傷あとを残す。問題点があれば指摘しながら軌道修正を求めていくべきで、その結果が軟着陸になり売上税廃止になるか、あるいは被害を最小限に食い止める方向になるか、それはまだ見通す時期でない。「解説し一つの見通しとして話したら、あなたもターゲットのように受けとられた。日商がいつ軌道修正するかと皆さんが待ち構えていたところだったので、まさに変身と理解された。しかし、変身ではない」「自民党に大きな傷を残すような、売上税というものを、出来るだけ傷口を小さくして取捨したい。これが本意です」「修正の方向で三つのターゲット①税率引き下げ②実施時期延期③非課税範囲拡大」を話したが、個人的な見通しの程度で、日商や経済界の皆さんとも話していないし、まだその段階でもない」「どこが修正についての意見を出すかと言えば、やはり経済界だと思ふ。四団体の中で基本的

に反対を貫いてきた日商が、いずれ修正の意見を出さなくてはならないと覚悟しているが、細かく言いすぎたので、ああいうことになった。ちょっと早すぎた。具体的な修正方向についてはしばらく発言を控えていきたいので、よろしく。しかし、「中曽根さんは間違っていたと国民に謝り、釈明し、所得税先行などタイムリングも考え、この税を訴えればかえって株があがるという声もあるが」といった趣旨の質問に次のように答え、再度「ビッグ・ニュース」を提供することになった。

「中曽根退陣すべし」というような、政治倫理や動向の問題を評論する立場になり、端的に言ってグリーン・カードのようになりや一番いいと思っている。質問者が「退陣云々でなく公約の間違いを認めれば……」と質問したと発言したのに対し、「それを言った結果は、総理は辞職しなくてはならない。簡単に謝って総辞職の方向へもっていくのはいまは避けなくてはならない」。

流通、中小企業をかかえる日商会頭の立場と、中曽根首相の有力ブレーンとしての立場が交錯する、五島氏の胸の中は複雑怪気？ 記念署名はサインペンで「売上税の嵐の前に立つ。」「二月六日(金) 経資会 司会 鈴木幸夫企画委員 出席 一〇〇人」

北村 敬 国立予防衛生研究所腸内ウイルス部長



「従来の伝染病対策の常識がことごとく通じないむづかしい相手です」。

取材や記事作成のために正確な知識を整理してもらい、エイズ報道について問題点があれば、それも指摘してもらおうという趣旨での研究会。四十枚近くのスライドを使い、エイズのすべてを解説してもらった。厚生省詰めの一線記者の出席が目立った。

専門的で多量な情報なので、とても消化しきれない。素人の耳に残った部分だけを紹介する。①高死亡率の免疫不全症・エイズの第一報は一九八一年六月五日米CDC「伝染病週報」で②昨年六月で世界の発病者約四万。アフリカの数字がはつきりすれば十万を超すかも③ニューヨークではほぼ一二人に一人が感染者、感染から発病まで五七か月。歯医者や手ぶくろだけでなく、眼球に血液の飛まつが入るのを防ぐためゴーグルを使うほど④「震源地」はアフリカらしく、そのウイルスが米国へ渡りホモ社会で水を得て世界へ⑤血友病治療のための血液製

剤とホモの国際交流が日本への侵入経路か、推定感染者約五千人⑥血管の中へ血液や精液中のウイルスが入らなければ感染しない。女から男への感染率は一%未満⑦ウイルスは消毒用エチルアルコールで簡単に死滅。無症状キャリア(感染者 通常生活可)を的確につかみ生活指導その他をいかにするかが、感染拡大防止のキメ手。【二月二日(木) 研究会 司会 井上好道企画委員 出席 七七八人】

H・R・チヨードリ 国連総会議長

日本の提案で設置された行財政改革委員会作成の、七一項目の国連改革案が、議長努力でほぼ原案通り採択された。「第四十一回総会は国連の歴史にとって分岐点だった。しかし「採択されても実行されなくては意味がない」とも。

一五九か国の満場一致決議までこぎつけるには大変な苦勞があったが、各国代表の中に国連憲章へのコミットメントがあったからこそ可能だったと言ふ。国連



ク ラ ブ ゲ ス ト

の再活性化のためには「総務、財務、政治、外交、哲学に秀でた複合賢人がリーダーとして必要であり、専門機関等のサービス強化と能率向上を進めねば」と。現職のベンガラデシュ外相で、エルシャド大統領（六〇年六月二〇日）クラブで会見の訪日にも同行したので、クラブ訪問は二度目。「二月二十四日（火）記者会見 司会 白井淳一企画委員 通訳 福島安紀子 出席 三人」

小坂徳三郎 衆議院議員（日米議員連盟会長）

約五十分で訪米報告（二月七日）と（一二日）と積極財政転換への提言を。大統領候補のベーカー元上院院内総務（二月二十七日）首席補佐官にもケンブ下院議員も「日米経済問題は選挙のビッグイシューになる」と。包括貿易法案は、四月中に下院を通り五月初めに上院へ、そして五、六月で審議終了し成案の方針のようだ。



「短期間なのでラジカルなものになる可能性が高い」と懸念する。米国が一番期待しているのは、日本の黒字幅の縮小ではない。「米国製品の輸入と日本市場の透明化なので、輸出を抑えても効果的でない」。ロン・ヤスと呼ばれるような日米関係の中で、多くの約束がなされたが、それが不徹底だったため、日本は約束を実施しないズルイ国。米国は要求ばかりでナマケモノ。といったイメージをつくってしまった、とする米国人教授の発言を紹介した後、モス協議での米側の不満やドル安・低金利政策を説明し、中曽根総理の対米政策を批判した。

一昨年二月訪米から帰って、その時総理に「長期的計画を示し具体的な対応を」と進言した。「せっかくなのお話ですけど臨調がありましたね」の答えだった。それで「国内問題と貿易（国際）問題のどっちをとるんです」と言ったら、黙って返事がなく、今日に至った、と。

そして、いま一五三円というような円高で産業界（特に輸出関連の下請け）が悲鳴をあげ、雇用問題にまで進展。一方で、明日が見えないということ、マネーゲームでもうけようという風潮が広がり、地価暴騰、ゴルフ会員券が一億とか三億という異常な社会になっている。日米摩擦緩和のためにも新しい成長のためにも、「六十五年度特例公債ゼロの公

約を五年くらい遅らしても、積極財政に転換し内需を拡大する必要がある」と。さらに質問への答えの中で「世直しをするんだという政治判断が先行しなくてはいけない。内需拡大の柱はあえて言えば減税。窓が開かれれば経済界も働く人も違ってくる。財源は補正でやればいい」「ソーセージみたいにつまんで出口がないところでも考えても、アイデアなんか出てこない。一回頭を切ってスーッとさせなくちゃ」。狸ごうは「風呂」（風呂のここざし）。「二月二十五日（水）記者会見 司会 山岸一平企画委員 出席 八〇人」

伊東正義 自民党政調会長



わが国経済社会の将来と財政百年の大計を考え「増減税同額で税制改革の森をつくったが、売上税という一本の樹だけがとりあげられ議論になっている」と。今回の税制改革の基本構図を説明し、理解をもとめた。会長の方から希望しての会見。党税制改革推進本部の山下会長代理、野田事務局長も同行した。

所得税減税を強調した。税額分の価格転嫁がしやすいよう公取にもはたらきかけるつもりで、「修正なんて一切言わず推進本部ではやっている」と会長は言う。その会長に井出会員が次のように質問した。「税の話は元来複雑で分かりづらい。また月一万くらいでないか減税感はないのではないか。元会長の藤尾さんはこのクラブで（五九年五月三十一日）間接税の必要を公言し、新聞にもかけるとオドした。以前からこれは議論になっている。国民もある程度は分かっていると思う。それを選挙で『やらない』と言い、藤尾氏が『やらなきゃ』と言えば、総理が党がしらないけど、みんな打ち消して、いまになってそれをやるというから混乱し、一層分かりづらいのでは」。

これには会長もシャッポをぬいで、「どうやって中曽根さんの言ったことに抵触しないようにするかが苦心の存したところ……。感想を言えと言われるのが一番困る」（笑い）。

今後の進め方については「予算と並行してのつもりだが、予算がどうなるのか、政局がらみでもあるので、予算審議の後になるのではないか」との見通しを示した。トットツと述べ最後に「サラリーマンの人にプラスの改革ですので、よろしく」の会長発言に、会場は陽性の笑いにつつまれた。同じ発言がいまの中

クラブゲスト

曾根さんだったら、どういう反応になるだろうか。【二月二六日（木） 記者会見 司会 広瀬一郎企画委員 出席 一〇七人】

緒方四十郎 日本開発銀行副総裁



二時間かけて「最近の国際通貨・金融問題」についてたっぷり教えてもらった。当面最大課題の「レートの不安定と国際

収支不均衡」への二つの代表的対処案を説明し、日米合意やパリ合意を解説、国際金融市場の二極化（忘れられた途上国）にも言及した。日銀理事時代の通貨マフィアとしての経験、直接タッチしたブラザ合意の背景やエピソードもまじえて、問題を網羅的に整理してくれた。

「金融が虚業化している」ことを憂え、西側政府が途上国の累積債務問題に積極的に対応する必要があるとする。そして、「今度はオイルダラー還流の時と違い、返済期限のない資金、即ち開発援助を途上国に与え、実需を拡大すべきではないだろうか」と。記念署名は二・二六の日に「四十郎」。【二月二六日（木） 研究会 司会 鈴木幸夫企画委員 出席 七八人】

石原 俊 経済同友会代表幹事



未曾有の厳しさの中で、日本が何を目標すべきかといえば、グローバルな繁栄であり、そのために国民の生活の豊かさ、波及型の内需拡大が政策として重要だとする。具体的手段として二案を提唱し、「まず第一に所得税、法人税に加え住宅、投資減税を実施すべきだ」と。その基本的な財源は売上税にもとめ、当面最優先すべき所得税先行のためには「一、二年の短期国債を発行してでもやるべきだ」と言う。

第二の手段として円高・原油安メリットを活用した「物価引き下げ」をあげた。「政府管掌物質の差益還元が遅れている。約一五〜一七兆円あるということだから、全体で少くとも七〇％くらいまでは還元しなくては。政府の関与しているサービス料金を下げてしかるべきだ」。内需拡大と構造調整を進めて輸入を拡大すべしとの主張。途上国の累積債務についても「一部棚上げを含む救済協定が

必要なのではないか」とし、こうした債務国の経済発展のため「IMF、世銀に日本が資金を出して、ジャパン・フアンリテックを設けてはどうか」とも。

質問も活発だった。ジェームズン会員（ロサンゼルス・タイムズ）が「一九九〇年過ぎには現地生産が二〇〇万台を超すが、対米自動車輸出が減る日がくると思ふか」ときけば、ヒルシャー会員（南ドイツ新聞）は「日本の有給休暇は労基法では六日から、ドイツは三倍の一八日からになっている。いま日本も一〇日からに改正しようとしているが、会社のために過ごす時間が長すぎるというイメージをふり払って、二世紀のいつになったら、日本も普通の国に近くなる？」と（いざずれも日本語で）。揮ごうは「史上空前の国会空転の日に」。【二月二七日（金） 昼食会 司会 鈴木幸夫企画委員 出席 七七八人】

ジャン・クロード・ペイユ OECD事務総長

現在の世界経済を見出し風に表現すれば次の二本になると、「潜在成長能力を發揮し得ていない各国経済」「依然として根強い国際収支不均衡」。

五月の理事会では、マクロ問題では①G7以降各国が何を、どのようにしたかが評価される②事務局がまとめた各国の構造調整の「研究報告」をもとに

した議論がなされる。ミクロでは①農業政策の見直し②急速な技術進歩とその影響③統合化した国際金融市場と急成長の金融取引の問題④経済活動との関係から各国が実行ないしは検討している税制改革——が議論の対象となる。

農業の見直しについては、各国の農業保護コストが高額になり、「市場と農民の距離が拡大ないし分断されている事実に着目すべきだ」と言う。経済合理性だけで割り切れない部分もあるが、いまや他の貿易分野にも悪影響を与えかねないので、数年をかけて農業政策を見直さなくてはならないという考えだ。各国が補助金を一律一〇％削減した場合、OECDのシミュレーションでは「一定時間を経れば、補助金の手取り分は減っても、市況が上がり、農家の利潤は高くなる」。

クラブでの会見は二度目、万年筆を記念品として贈った。前にももらったポールペンもシャープペンシルも愛用していると、内ポケットから出して見せてくれた。【二月二八日（土） 記者会見 司会 下田進一事務局長 通訳 長井朝子 出席 五六人】



スタジオ訪問

テレビ朝日

〔ヤジウマ新聞〕

朝刊の ダイジェスト

の久保文男さんだ。久保さんは、共同出身で、当クラブの会員でもある。久保さんも本番直前まで、六紙に、集中する。七時。この日の一面コーナーには読売、東京、サンケイ、毎日（紹介順）が選ばれ、紙面がスタジオに貼り出された。

テレビ朝日の『ヤジウマ新聞』（月金七時一五分～八時）は、その日の朝刊を一面、社会面、そしてスポーツ紙からスポーツ、芸能に分けて紹介、解説する。いわば二次情報番組である。

二月十九日（木）朝刊一面トップ——
▽朝日 鉄鋼大手五社人減らし四万人
▽毎日 近江で最古級のはにわ発見
▽読売 税制改革でGNP実質〇・一％アップ
▽日経 自由貿易ゾーンを地方に
▽サンケイ 日航中期経営計画発表
▽東京 衆院予算委日程調整持ち込まず

この日、在京六紙のトップ記事は全て違った。他の一面記事も「衆院予算委」がダブる程度。
「こんな日は、話題が豊富でやりやすい。時間が足りないくらいです」。外はまだ真つ暗な午前五時半、山本敏ディレクターは、どの新聞のどの記事をとるべきか、を思案中だ。他のスタッフも、コーヒールを片手に、新聞をめくっている。六時。「おはよう」。眠む気も吹つとぶような大きな声。解説者（木曜担当）

「他紙も見たい」「他紙も読まなければ」という読書視聴者に、『ヤジウマ』はおおいにうけた。また出勤途中、駅売りでスポーツ紙を買うサラリーマンには、「今日はあのスポーツ紙が面白いゾ」ということにもなった。スポーツ紙の中には『ヤジウマ』のVTRを見て、カラー、見出し、レイアウトなどを、テレビをつりがよくなるように工夫している社もあるとか。

「新聞の一部の顔しか見せていないわけで不満はあると思う。でも、朝食をとりながらその日のニュースの概要がつかめる、便利な番組にしたい」と山本さん。

しかし何といっても、同番組の目玉は、一面、社会面担当の解説陣だろう。久保さんのほか、塩田丸九（読売OB 月・水）、三宅久之（毎日OB 火）藤原弘達（金）の各氏、個性豊かな面々だ。三宅さんも当クラブの会員だ。四人四様の歯に衣着せぬ解説を楽しみにしている視聴者が多いという。

久保さんは、同番組を「新聞の翻訳だ」と言う。「新聞記事の背景や意味するところを、分かりやすくメリハリをきかせて解説したいですネ」。記者として実際に現場で取材して記事を書いた経験の蓄積が「メリハリをつける時モノをいう」とも。「テレビはより大衆的な媒体だから、簡潔で明瞭であること。それに面白さ、明るさが加わらないと見てもらえない。それに対して新聞は、問題点の分析、そしてオピニオンに重点がおかれていくのでは。速報のテレビと精妙な新聞と、共存共栄で大いに結構ですネ」。

『ヤジウマ新聞』には、休刊日はない。新聞休刊日には、テーマをしぼり問題を掘り下げる。二月十二日の休刊日には、エコノミストの田中直毅氏を招き、円高、財テクなどの経済問題の特集した。また同番組は、ロサンゼルスへVTRが空輸され、地元テレビ局でも放映されている。数日の時差はあるが、「日本のニュースを知りたい」という日系人や在留邦人に、大好評だ。

（長谷川和子）



「迫力のコメンテーター」の異名をもつ久保さん（左）と吉沢アナウンサー（右）

◇個人D会員

プロフィール

先月一日付入会の個人D会員、法人・個人賛助会員、特別賛助会員の方々です。

三月一日現在の会員状況
法人会員 114 社 基本会員 161 人
法人・個人賛助会員 1、352 人
法人・個人賛助会員 77 社・23 人
特別賛助会員 75 人 名誉
会員 16 人 計 221 社 2、291 人



▼このほど時事通信社から「戦争報道の内幕——隠された真実」(46判四三二頁二五〇〇円)を翻訳出版しました。

ロンドンの「サンデー・タイムズ」の老練記者フィリップ・ナイトリー氏が、多年にわたる資料の渉獵と、多数関係者とのインタビューによって完成した大著です。古くはクリミア戦争から近くはベトナム戦争まで、戦場で命を賭した多数の従軍記者や作家の報道記事が、軍や政府の検閲や宣伝活動、軍事機密による抑圧などで故国の読者に届くまでにいかに歪められて行ったかを、各個の例に当たって検証したものです。

(芳地 昌三)
▼編集・広告・編集・広告と渡り歩い

第35回施設運営委員会(2・9 第2会議室)

ラウンジのダイニングテーブルとイスの更新時期などについて検討した。

出席 犬養委員長。佐川、和田、宮地、山崎、黒木の各委員。

第114回会員資格委員会(2・12 第2会議室)

三月一日付の会員入退会を審議し、理事会へ答申した。

出席 小池、加藤、樋口、玉井、青木、

て、昨年六月、現職に転じました。逆転の発想で、ニューメディアを利用してナウメディアを強化・防衛しようという考えが固まり、三年越しの構想の具体化に着手しました。

構想とは、現在フィルムで流通している広告原稿の画像をデジタル信号化し、衛星通信を使って全国の新聞社に配信する業務を核とした新事業を起ころうというものです。まず起業研究会を業界総参加で組織しようと、昨暮れ以来、相棒の島戸副本部長と、手始めに主要紙や大手広告社を歴訪、三月四日現在、十二社のご賛同を取りつけることができました。おかげさまで、米国のアドサットを追って、今月中には研究会をスタートできそうです。

(朝日新聞社 ニューメディア本部 副本部長 本郷 美則)

埜邑、長竹の各委員。

第78回会報委員会(2・16 第2会議室)

会報の写真がより鮮明になるよう、三月から紙質を変えることにした。また、『ワーキングプレス』の執筆者についても簡単に社歴を紹介することにした。

出席 深川委員長。林、井出、安延の各委員。

第142回企画委員会(2・18 大会議室)

司会をした委員からの行事報告の後、三月のクラブゲスト、通常総会の記念講演の講師について意見を交換した。

出席 藤村委員長。浅井、佐野、広瀬、井上、有賀、久木、白井、武藤、河野、有馬、中川、村野、ヒルシヤの各委員。

第118回理事会(書面)

三月一日付で新大阪新聞社の退会を決定した。

囲碁の会

二月の例会は二十一日(土)。例月より少し早目の開催となったせいか参加は十四人、総対局二十九局。

吉沢正也六段、浅野道彦四段の常連二人がともに四勝一敗の好成績をあげたほか、二年二か月ぶりに参加した山田幸男五段(協会)が三戦土つかずでこの間の研さん結果を披露し、また近藤敬三段(デイリースポ)が強腕を発揮して四、三、初段連をなぎ倒して四勝一敗と派手に初陣を飾った。

三月の例会は二十八日(土)午後一時から大会議室で。初めての方もお気軽にどうぞ!

◇「アラスカの味勉強会」を検討中

新趣向の一つとして、レストラン アラスカの味の秘けつを勉強する会を、会員とその夫人を対象に行うための準備を行っています。土曜午後アラカルト料理のつくり方の説明と実演、そして試食という趣向です。

◇ご存じですか——行事案内電話

OECDのベイエ事務総長の会見(二月二八日)は急に決定したため、いつものようにハガキではご案内できませんでした。クラブの入口に張り出しを行い、関係出先クラブなどへ電話入れを行いました。農産品貿易のルールづくりへの関心が高く、土曜の午後にもかかわらず、一線記者五六人が出席しました。

なお、事務局ではその日までに決まった全クラブ行事を録音している、行事案内電話サービスも行っています。番号は(〇三)五〇三(三七六四)です。ご利用ください。

◇録音テープをご利用ください

昼食会、記者会見、研究会の録音テープをお聴きになる方は、できるだけ事前(9階受付)に五〇三(二七二一)へご連絡願います。プースでお聴きいただけると準備いたします。

写真部

写真 佐藤 正 (毎日新聞社 写真部)



古いものは古くならない

男女雇用均等法。実施されてまだ間もないが、なかなかいい線をいっている。職場で男女間のぎすぎすした感情も薄らいできたし、だいたい職業募集看板から「女子は不可」がなくなった代わりに「男子は不可」もなくなった。ありがたい時勢だ。

というわけで、こんど日本ではじめて男性の「着物着付師」が二十一人、山野愛子美容学校から誕生した。クヘー、そんな職業があったのか——なんてやほったいことをいっては困る。職業安定法施行規則第二十四条別表第二の中に医師、弁護士、美容師などと並んで「着物着付師」が法的に格づけされている。

さて、今回晴れて着物着付師の免許をもらった男子卒業生は「男女を意識する方がおかしい、着物が好きだから挑戦しただけ」という。とはいうものの、着付となると繊細なる女体のヘダに触れざるをえない。その時々、グラグラと精神的動揺を起こすことになりはしないか、と邪推するのは野暮天の勘ぐり。写真の面構えからして着物着付師の品格は十分とみた。

古いものは決して古くはならない。ただ新しいものが古くなるだけだ(リュッケルト)。その伝でいけば日本伝統の着物は亡びず、従って着物着付師も商売繁昌するだろう。

(桑田 琢磨)

昼食会、記者会見の扱いでお願い

「最近、新聞もテレビも、クラブ主催の昼食会（時には記者会見の場合でも）の内容を扱う際、『日本記者クラブで講演して——』という形で報道しているが、かつてのように『日本記者クラブの昼食会』というようにすべきではないか」というご指摘をいただきました。

確かにワシントンはじめ各国ナショナル・プレスクラブの主要活動は、プレスランチョン（VIPを迎えるの昼食付き記者会見）とプレス・コンファランスであり、当クラブでは一貫して前者を「昼食会」（外務省は時々誤って「午さん会」と発表するが）と呼んでいます。クラブの昼食会や記者会見は、ニュース・ソース、プレス、受け手（読者、視聴者）の三者関係の中で、プレスがその社会的機能と責任を積極的に認識して行う「公式会見」と考えるのが妥当でしょう。ここでは、抜く抜かれるだけでなく、どのジャーナリストがいま何をどう質問するかも注視されます。ゲストであるニュース・ソースは面前のプレスを通じて、受け手である国民にメッセージを伝達し、プレスも受け手の視線をよい意味で背後に意識して職業活動を展開する。特に超VIPの昼食会や記者会見の際は、すべてテレビで生中継されるので、ゲスト同様プレスも受け手の視線に赤裸々にさらされます。

まだまだ十分とはいえないかもしれませんが、そういう機能をさらに定着させていくためにも、かつてのように「日本記者クラブの昼食会」や「日本記者クラブで記者会見」という表現にさせていただければ幸いです。

便利です——喫茶券

ソフトドリンク専用の喫茶券を販売しています。二十枚つづりで二、四〇〇円です。コーヒー、紅茶、コーラ、オレンジジュース、ジンジャーエールに共通してお使いいただけます。オーダーの際にこのチケットをいただきますので、レジでの精算が不要になります。「おつりの小銭に閉口することもなくなりました」「コーヒー一杯の支払いにレジで待つこともなくなりました」と好評です。サービスを担当しているレストラン・アラスカも、コーヒー一杯で伝票をきる必要がなくなり助かっています。ソフトドリンクは極力、喫茶券でご注文くださるようご協力ください。ラウンジのレジで販売しています。

四月八日に春のゴルフ会

第48回ゴルフ会を次のように開催いたします。
 日時 四月八日（水）午前九時集合
 コース スリーハンドレッドクラブ
 茅ヶ崎市甘沼四四一
 電話〇四六七―五三―〇三〇〇
 会費 五千元
 参加ご希望の方は、三月二十日（金）までにクラブ事務局へお申し込みください。

クラブの会計からお願い

三月はクラブの決算月になっております。六十一年度中の会費、会合費のお支払いはできるだけお早目に処理していただくよう、ご協力をお願いいたします。

会員の著書（ご惠贈いただきました）

- The Japanese Economy in Transition 加藤 寛
- 日本漢詩新編 劉延州
- 商人としての樋口一葉 後藤 基
- 寄贈書
- 回想 日本と国連の三十年 国際連合広報センター
- ブルーヘルメット // インフォブラス
- 超大国のはざままで 日本新聞協会
- 全国新聞ガイド 近藤絃一著 文芸春秋社
- 目撃者 ACCJ 1987 DIRECTORY 在日米商工会議所

クラブ訪問者

流局次長
 展覧会の招待券 朝日新聞社から「日比野五鳳遺作展」を、平野光男会員（西武美術館）から「加藤一展」「安井賞展」「齊白石展」の招待券をご惠贈いただきました。お礼申しあげます。

三月の行事（5日現在）

- 13日（金）午後3時〜4時30分 伊丹十三氏を囲む会
- 17日（火）正午〜午後2時 矢野鉤也公明党委員 長昼食会
- 25日（水）正午〜午後2時 大槻文平日経連会長 昼食会

会報委員長 深川 誠

- 委員 林 利隆 井出新六 斎藤吉史 安延久夫
- 連絡 長谷川 河野（事務局）五〇三―二七二二